

## 平成23年度第2回新潟市環境影響評価審査会議事概要

### 1 日時

平成23年7月12日(火) 午前9時30分～午前11時30分

### 2 場所

新潟市役所第1分館601会議室

### 3 内容

- (1) 開会
- (2) 新潟都市計画道路3・4・590号 新潟中央環状道路  
環境影響評価準備書について
  - ① 準備書に対する質疑及び意見に対する事業者の回答・見解
  - ② その他準備書に対する質疑・意見について
- (3) その他
- (4) 閉会

### 4 当日配布資料

- 次第／座席表
- 出席者名簿
- 資料1 準備書に対する質疑及び意見に対する事業者の回答・見解一覧

### 5 出席者

- 別紙名簿参照

### 6 議事概要

#### 開会

#### 事務局

委員14名のうち8名の委員が出席しており、過半数を超えているので本日の審査会が成立することをご報告させていただきます。

#### 議事(1) 資料1について

#### 会長【進行】

資料1【準備書に対する質疑及び意見に対する事業者回答・見解一覧】の説明を事務局より説明願います。

## 事務局

【資料1】6-11-1の説明

## 会長

何か補足はありますでしょうか。

## 委員

「ノーネットロス」というのは開発行為によって生物多様性の状況が減少していくのを防ぐという意味でありネットでロスを起こさないという原則に基づく。世界的な方向性であり、なるべく先取りしたい。モグラのMVP（存続可能最小個体群）については約500匹いれば存続できると考えられる。事業者の回答では直ちに絶滅することはないかもしれないが中長期的に存続できるのかは疑問である。照明の部分は光漏れが少ないものを使用するとのことで宜しいかと思う。

マツモ、アブノメについては影響が少ないとよくいわれるが、事業を進める中で、管理計画に基づき、個体数の把握、動向調査など順応的管理を基本として保全していくべき。

## 事務局

事務局からの補足ですが、生物多様性地域計画は現在検討途中である為、中身が決まっていない計画についてアセスの準備書の段階で反映させることは現時点では難しい。ノーネットロスについても事務局でも過去の事例など精査し判断させて頂きたい。

## 会長

生物多様性地域計画は策定段階ですが、現実的に策定された後、都市計画道路との兼合いはどうなるのか。

## 事務局

生物多様性地域計画は今年度中には取りまとめ予定であり、年度末にはある程度の方針が明らかになる。当然、市の計画としての事業であり整合性が図れるよう進めていく予定である。今後は市役所庁内での調整を進め検討したい。

## 委員

生物多様性地域計画について、保全計画は具体的にどの程度組み込まれているのか。

## 事務局

生物多様性地域計画自体は新潟市の自然環境のマスタープランであり、計画そのものが具体的にどの程度保全するのかという意味合いより基本的な指針である。それに基づき、今後幾つかの個々具体的な保全計画を作るものであります。

## 会長

続いて事務局より委員のご意見に対する回答・見解をお願いします。

## 事務局

【資料1】6-2-26～6-4-7の説明

## 委員

予測のための交通量設定についてだが、実際の平均速度は法定制限速度を大きく越えているのが現状であり、環境アセスメントについてはこの点を考慮して提示して頂きたい。

また、防音壁の効果であるが、側方回折で影響が生じないとは考え難い。予測地点については、障壁の途切れた箇所である校舎入口を選ぶべきである。

三点目で、当該道路区間の軟弱地盤に係る予測方法において「一般に $\alpha f$ が15Hz以下であると軟弱地盤」となっているが、実測値では15Hzに近い地点もあり、こうした地点も軟弱地盤として考慮すべきではないのか。

## 事務局

設計速度に関しては現状の速度超過も考慮し、その他の道路評価事例を集めたい。

## 環境分析センター

6-2-59の白根北中学校の騒音予測地点について、校内では別途学校環境の衛生基準がある為、今回は校舎（屋外）の位置で予測を行った。側方回折についても予測地点近郊に音源を置き計算した結果、影響はないと考える。

## 会長

軟弱地盤に係る予測についてはどうか。

## 環境分析センター

$\alpha f$ についてだが、計算の中で地盤卓越振動数が少なくなってくると揺れが大きくなるよう補正されている為、 $\alpha f$ の計算の中での地盤の軟らかさによる振動全般の仕方が変わることは補正されていると考える。

## 委員

実際の走行速度というのはどの程度把握できているのか。

## 事務局

道路に関する環境基準というのものが、本市でも平成20年より441区間を調査している。

## 会長

その点を加味した形で安全性を示しているのか。

## 事務局

恐らく、測定結果は実際に走行する車両の速度に基づいたものであり数値は今回の評価の中での一定の参考になると考えられる。

## 委員

現状の走行されている結果の部分をどの様に反映させるのか。

## 事務局

平均走行速度、走行台数が今後目安になると考えられる。

## 会長

現実に実測されているデータを含め再度回答をお願いしたい。

## 事務局

【資料1】5-46～6-12-10の説明

## 委員

回答にもあるように景観とは見る主体である人間と見られる主体で対象である環境との視覚関係ということが重要である。今後もマニュアルに沿って計画を進めて頂きたい。見る主体である人間については今回の道路の様に田園地帯を通るものは直近の居住者（集落）の視点が重要となってくる。

## 会長

今後、評価書について加筆、修正を含めて進めていくということで宜しいか。

## 事務局

従来のアセスメントでは景観に関する評価は主要な眺望点からどう見えるかが基本となっていたが、住民側からの景観も重要視されてきている。

## 委員

釈迦堂に関して、利用の有無に関わらず考慮すべき。山並みについてはありふれているかもしれないが居住者から見ると唯一無二の風景であり配慮が必要であると思われる。

## 委員

大部分が盛土構造ということだが法面については現状どの様に使う予定なのか。

## 環境分析センター

基本的には低盛土として下部はコンクリート、上部は吹付けの予定である。

## 委員

植物種や芝生の予定はあるのか。

## 環境分析センター

芝生は難しいが吹付けの種類は検討中である。

## 事務局

最近では道路の法面吹付けの際、本来そこに無かったものを他の場所から持ってくるという考えから在来種を優先して整備を進める考えに移行している。今後事業化にあたり、市の環境セクションから事業者向けの要望事項として進めたい。

## 会長

続いて委員の意見をお願いしたい。

## 事務局

【資料1】委員の意見，回答の説明

## 委員

新潟国道事務所の策定した道路の将来交通需要の予測を勘案してという記述が1-1-1にあるが、将来の需要予測に対して二車線と四車線の選択等が交通渋滞・大気汚染・騒音に多大な影響を与えると考えられるが、需要予測の詳細を説明願いたい。

## 新潟市土木部道路計画課

土地計画決定では四車線を予定している。

## 委員

具体的な想定の中身，予測モデル，資料があれば説明願いたい。

## 新潟市土木部道路計画課

新潟市では道路構造令を基にしている。

## 委員

渋滞大気汚染，騒音は予測値によって変わるが予測モデルについて説明願いたい。

### **新潟市土木部道路計画課**

交通量については国交省の調査する直近の道路交通センサスを利用している。

### **事務局**

【資料1】2-40の説明

### **委員**

環境影響評価からすると文化財は対象とされないのか。先ほどの委員の景観の点からも，自然環境だけでなく歴史環境も景観資源として考慮されるべきと考える。

### **事務局**

新潟県条例のアセス手続きにおいては，資料4-2からみても文化財という項目は入っていない，これまで自然景観の中に位置づけられていた。しかし，市条例においては文化財の項目を設けアセスの段階から埋蔵文化財に対する調査を行うことを明文化しており，市の意見として県にも働きかけることが出来る。

### **委員**

出来れば今後は路線決定前に試掘をし，埋蔵遺跡発掘の際は路線変更もお考え頂きたい。

### **新潟市土木部道路計画課**

事業実施にあたり，現況では用地買収の後に試掘をしている。

### **事務局**

【資料1】6-9-9～9-15の説明

### **委員**

エチゴモグラの頭数に関し正確な数字は把握されているのか。

### **環境分析センター**

現地調査の結果，一農家あたり年間数頭は捕獲しているとのことだが，正確な数字は把握されていない。

### **委員**

新潟市において絶滅危惧 IB に選定されている哺乳類はエチゴモグラが唯一であり，高い位置にあると考えられ，遺伝子レベルの調査や今後の捕獲方法の検討も必要ではない

か。

## 会長

その他意見として、計画道路地域の白鳥に与える影響について委員より説明をお願いしたい。

## 委員

新潟平野は白鳥を始めとして大型鳥類の生息地となっている。しかし道路が作られる際、道路の規模に関わらず環境に負荷を与え、少しずつ生息環境が悪くなり生物が減少している実態を認識頂きたい。白鳥の生息については、道路建設によって個体数の変化などに著しく影響を与えるものではないと考える。

## 会長

その他ご意見はあるか。

## 委員

市がレッドデータブック作成にあたって基礎調査をしているが、その時にどの程度までエチゴモグラについて把握できているのか。現段階において情報提供のできるデータがあれば教えていただきたい。

## 事務局

現在一通りは持ち合わせていないため、改めて提示をさせていただきたい。

## 委員

この建設計画はいつごろ具体化するのか。県条例の場合は、時間が経過してしまうと中止の判定、再評価に入ることがあるが、市条例ではどうなのか。

## 新潟市土木部道路計画課

この中央環状道路については一部区間が合併建設計画に位置付けられている。区間は国道8号から西側の国道116号までであり、当該区間については早期に事業完了を目指している。国道8号から東側の国道49号までの区間については、今のところ事業着手時期の目途は立っていない。

## 事務局

アセス結果の有効期限について、全国的には5年という区切りを設けているところがあるが、県条例では特に期間を設けていない。市の条例も同様である。ただし、市条例をつくる際、県との協議の中で、周辺環境がアセスの予測評価を実施したときのものと大きく変化した場合は、再評価・再手続きなど何かしらの措置が必要になると考えられ

ている。

**閉会**

**会長**

本日の議事はここまでとする。